

## ふじさわSDGs共創パートナー取組実績報告書

2025年度の取組実績を次のとおり報告します。

報告日	2026年4月10日
-----	------------

企業・団体名	株式会社サンオータス モビリティ事業部
--------	---------------------

No	具体的な取組内容	2026年度の取組予定
1	<p>【11.住み続けられるまちづくりを、17.パートナーシップで目標を達成しよう】</p> <p>①当社は2014年より、Fujisawaサスティナブル・スマートタウン（藤沢SST）にモビリティ事業者として参画してきました。</p> <p>②2025年度はこれまでの取組を継続・発展させ、サイクルシェアやカーシェアを含む複数の移動手段を活用した、マイカーに依存しない移動環境づくりに取り組みました。</p> <p>③タウン内の生活動線や移動ニーズを踏まえ、居住者および近隣住民が目的に応じて移動手段を選択できる環境の利便性向上を支援しました。</p> <p>④Fujisawa SSTコンソーシアム会員や関係者と連携し、住み続けられるまちづくりを支える交通の在り方について意見交換を行いました。</p>	<p>①Fujisawaサスティナブル・スマートタウン（藤沢SST）において、モビリティ事業者としての参画を継続します。</p> <p>②タウン内における移動手段の利用状況や生活動線を踏まえ、以下の観点からマイカーに過度に依存しない移動環境の推進に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクルシェアステーションの配置と利便性の向上</li> <li>・カーシェアを含む複数の移動手段の適切な役割分担</li> </ul> <p>③Fujisawa SST居住者および近隣住民が、通勤・通学・買い物・余暇活動などの目的に応じて移動手段を選択できるよう、利用しやすいタウンモビリティの在り方を検討します。</p> <p>④Fujisawa SSTコンソーシアム会員や関係者と連携し、居住者の暮らしに寄り添った交通のあり方について意見交換を行い、住み続けられるまちづくりにつなげていきます。</p>
2	<p>【3.すべての人に健康と福祉を、7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに、11.住み続けられるまちづくりを】</p> <p>①藤沢市内における交通課題の解決および環境負荷低減を目的として、電動モビリティを活用した体験・周知活動を行いました。</p> <p>②2025年度は、電動車いす（WHILL）を活用し、大庭台墓園および大庭城址公園等において体験会を実施しました。</p> <p>③坂道や広い敷地内での移動を想定し、移動負担の軽減や外出機会の確保につながる移動手段としての有効性を紹介しました。</p> <p>④電動バイク・電動キックボードについては、村岡ミロクジナにおいて日常の近距離移動を想定した体験機会を提供しました。</p> <p>⑤湘南工科大学のオープンキャンパスでは、学生を対象に新しいモビリティの体験機会を提供し、交通ルールの認知向上にも取り組みました。</p>	<p>①藤沢市内外のイベントに出店し、モビリティ商材の展示・試乗・販売を行いました。</p> <p>藤沢市内における交通課題（高齢者の移動負担、短距離移動の選択肢不足、環境負荷）への対応を目的として、電動モビリティを活用した取組を継続します。</p> <p>②電動車いす（WHILL）に関する取り組みとして、大庭台墓園および大庭城址公園において、以下の活動を藤沢市や関係機関と連携しながら推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・坂道や広い敷地内での移動を想定した体験機会の継続</li> <li>・墓参や散策など、生活に根ざした利用シーンでの活用促進</li> <li>・高齢者や付き添い家族を含む多世代の外出機会の確保</li> </ul> <p>③三共自動車やロボテラス等、性格の異なる市内拠点においても体験機会を設け、公共空間における電動車いすの活用可能性を検討します。</p> <p>④電動バイク・電動キックボード等に関する取組として、村岡ミロクジナでは、日常の近距離移動や地域内回遊性の向上を意識した体験機会を提供します。</p> <p>⑤湘南工科大学では、学生・教職員を対象に、以下の取り組みを実施し、若年層における持続可能な移動手段の理解と定着を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電動モビリティの体験機会の提供</li> <li>・電動キックボードや電動バイクの交通ルールおよび安全利用の周知</li> <li>・シェアリング型電動アシスト自転車の有効活用方法の紹介</li> </ul> <p>これらの取り組みを通じて、マイカー依存の軽減、渋滞緩和、CO<sub>2</sub>排出削減につながる移動の選択肢を市内に広げていきます。</p>
3	<p>【7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに、9.産業と技術革新の基盤をつくろう、17.パートナーシップで目標を達成しよう】</p> <p>①藤沢市や関係機関、地域団体と連携し、市内各所で電動モビリティの体験および周知活動を実施しました。</p> <p>②2025年度は、電動推進による環境負荷の少ない移動手段を通じて、渋滞緩和やCO<sub>2</sub>排出削減につながる移動の選択肢について情報発信を行いました。</p> <p>③湘南工科大学においてサイクルシェアステーションの設置・活用に取り組み、学生・教職員の移動利便性向上を支援しました。</p> <p>④共創の視点を重視し、複数主体が連携する持続可能なモビリティ活用の可能性について検討しました。</p>	<p>①藤沢市および関係機関、地域団体との連携を継続し、電動推進による環境負荷の少ない移動手段の普及に向けた取り組みを進めます。</p> <p>②市内各所での電動モビリティ体験や周知活動を通じて、自動車利用の分散による渋滞緩和、そして短距離移動に適したクリーンな移動手段の認知向上を図ります。</p> <p>③湘南工科大学に設置したサイクルシェアステーションを起点とし、学生・教職員を対象に、電動モビリティやシェアリングサービスを活用した移動スタイルの理解促進に取り組みます。</p> <p>④若年層に対する交通ルールや安全利用の啓発とあわせ、先進的なモビリティ技術を身近に体験できる機会を通じて、持続可能な移動の定着を目指します。</p> <p>⑤複数主体による共創の視点を重視し、藤沢市内の地域特性に応じたモビリティ活用の可能性について検討を進めていきます。</p>